

1. 活動の背景

(1) 地区の概要

地区の状況

「防犯ネットワーク」は川崎市北部の高津区および宮前区を中心に活動を行っています。ここは、江戸時代より大山街道筋など交通の要所として発展し、現在では中小加工組み立て型企業が集積するものづくりのまちとしても知られていますが、多摩川をはさんで東京都に接しており、昭和戦前期、鉄道延伸によって東京と結ばれ、高度成長期以降、渋谷まで直通運転されるようになることによって、新しく多くの住民が移り住むようになった地域です。

活動エリア
(神奈川県警ホームページを加工)



	高津区	宮前区
人口(人)	198,408人	205,217人
面積(k㎡)	17.1 k㎡	18.6 k㎡

犯罪の状況

2005年の一年間の街頭犯罪等発生件数を見ると、自転車盗、空き巣の順に比率が高く、高津区(高津署)では全刑法犯罪2,938件中、自転車盗が477件で16.2%、空き巣が245件で8.3%を占めています。同じく、宮前区では全2,179件中、自転車盗が308件で14.1%、空き巣が190件で8.7%を占めています。

また、川崎市高津区・宮前区で不動産管理の仕事をしているNPO代表の田中伸一氏の話によると、近年空き巣の発生が非常に多く、管理している3000戸の住宅では2~3週間に1度空き巣が発生していると実感されているとのこと。

	高津警察署		宮前警察署	
全刑法犯罪	2,938	100.0%	2,179	100.0%
・路上強盗	2	0.1%	2	0.1%
・ひったくり	142	4.8%	33	1.5%
・自転車盗	477	16.2%	308	14.1%
・オートバイ盗	186	6.3%	151	6.9%
・自動車盗	42	1.4%	40	1.8%
・空き巣	245	8.3%	190	8.7%

表:2005年の街頭犯罪等発生件数(神奈川県警資料より)

(2) 活動の動機と経緯

動機

2002年、NPO代表の田中氏はPTA会長をされていましたが、池田小学校児童殺傷事件が発生したことがきっかけで、学校内外での子供の安全に対する危機感が高まったとのことでした。翌年早速、PTA等による「高津・東高津中学校区地域教育会議」の活動で防犯をテーマにしたフォーラムを開催しました(参加者数277名)。そこで行ったアンケートをとったところ、177名が回答し、「自分にできる範囲でなら防犯活動に協力する」という回答が97%と大多数を占めました。このことが、防犯活動に本格的にとりくむきっかけとなったとのことでした。また、田中氏が不動産管理という仕事柄、地域で空き巣が多発しているのを実感していたことも、防犯活動にとりくむ要因になったといわれています。

経緯

活動を開始するにあたり、まず区役所に相談に行きましたが、住民による防犯活動に対する受け皿がなく、なかなか具体化しませんでした。次に地元の高津警察署との連携を検討したところ、警察署が毎日作成している「犯罪日報」が、自治会宛には届けられるものの、迅速に多くの住民に提供されていないことが分かりました。学校宛にもファックスで情報を提供して欲しい旨交渉しましたが、実現には至りませんでした。

そこで、この「犯罪日報」にまとめられている地域の犯罪の情報を地域の人にとって、身近な問題としてとらえ、地域の防犯意識を高めていくため、自ら地域住民にメール配信することで有効活用することとしました。配信数は日々増加し、2005年10月現在で3000件を超えるまでになっています。

また、2004年7月には、犬の散歩をそのままパトロール活動として協力してもらう「わんわんパトロール隊」の活動も始め、2005年10月現在、登録件数が約300件となっています。

2005年4月には、隣接区の宮前区管内の犯罪情報も配信するようになりました。そして、同年5月、活動基盤を確立するために組織のNPO法人化が図られました。さらに、同年8月には、神奈川県「犯罪のない安全・安心まちづくり推進条例」に基づく「パイロット事業補助金事業」の高津区内第1号に認定(16件応募中、7件認定)されるなど、活動に対する評価も得てきています。

表：活動経緯

(2002 - 2003年)	田中代表、PTA会長を務める。「中学校区地域教育会議」を中心に活動
2002(平成14)年	大阪教育大付属池田小児童殺傷事件発生し、PTA等で危機意識を強く抱く
2003(平成15)年	「地域教育会議 子ども会議」で、防犯をテーマとしたフォーラムを開催 (アンケート(177名回答)で、約97%が「地域のためにできることがあれば協力する」と回答。)
	防犯活動団体立ち上げ(行政など関係機関との防犯活動の連携を模索)
2004(平成16)年1月	高津署作成の「犯罪日報」を中心にメールマガジンとして試験配信実施
2004(平成16)年2月	メールマガジンの本格配信開始
2004(平成16)年7月	高津わんわんパトロール隊活動開始
2005(平成17)年4月	宮前区でも犯罪日報の配信等、活動開始
2005(平成17)年5月	NPO法人化
2005(平成17)年8月	神奈川県「犯罪のない安全・安心まちづくり推進条例」に基づく「パイロット事業補助金事業」の高津区内第1号に認定される。

2. 活動の目的・内容

(1) 活動の目的

多くの地域住民が、無理なく自分に出来る範囲の地域安全活動を行うことなどを目的としており、「見て見ぬふりはしない」、「自分たちでできることをする」というスローガンを掲げています。

防犯ネットワークの目的および事業(定款より)

目的:「この法人は、地域住民に対して、地域安全活動、子どもの健全育成に関する活動に関する事業を行い、安心安全な街づくりの推進に寄与することを目的とする。」

事業

地域の犯罪、防犯情報の配信、発信
 わんわんパトロール隊等の地域防犯活動
 各種団体との連携を図り、地域のネットワーク作りに寄与する活動
 他地域における、同様の活動に対する助言、援助、設立支援等の活動

(2) 活動内容

「犯罪日報」のメール配信

地域で起こっている身近な犯罪情報を提供することが、防犯意識をより一層高めることにつながるとの考えにより、高津警察署が作成している「犯罪日報」の情報を地域住民にほぼ毎日eメールで配信しています(宮前署では、毎日出されていないので不定期に配信)。2005年10月現在、配信数は約3200件に上っています。

配信作業：警察から送られてくる情報の編集及び配信作業は、田中氏と他役員2名で行っていますが、被害者が特定されないように編集の上、配信されているとのことです。

メールの受信：メール配信を受けるには、ホームページ上や登録用のメールアドレス宛に氏名を記名したメールを送付すると登録できる仕組みになっています。

犯罪日報の入手方法：メール配信の開始に当たっては、警察の「防犯モニター」として田中氏が登録し、ファックスで日報の配信をしてもらえるようになりました。

配信上の苦労等：配信数が3000件を超え膨大なため、一般の配信ソフトでは、700通を超えたあたりからプロバイダーから受け付けられなくなるという課題があります。そこで、通信の専門会社に委託して配信されています。

「わんわんパトロール隊」の組織

犬の散歩をそのまま防犯活動に役立てる、「わんわんパトロール隊」への登録を地域住民に呼びかけています(2005年10月現在、登録数約300頭)。

パトロールの方法：多くの市民が無理なく参加できるように、パトロールのコースは特に指定していません。また、不審者がいた場合には、危険な目に合わないよう、直接相手に声をかけたりはせず、警察に通報していただくことにしています。

「わんわんパトロール隊」への登録：犬の散歩で人がよく通ったり集まったりする場所で年数回、「わんわんパトロール隊」の登録会を開催しています。登録を呼びかけた相手の約8割の方は、快く登録に応じてくださるとのことです。



わんわんパトロール隊員証 (HP より)



わんわんパトロール隊員 (HP より)

「防犯ポスター」の掲示

空き巣防止対策のため、地区内のアパート・マンションの協力を得て約 130 棟の建物入口に「防犯ポスター」を貼っています。貼った建物では効果があがっているとのこと。

この他、街頭の掲示板での防犯ポスターを掲示したり、「振り込め詐欺防止ポスター」を金融機関の協力を得て A T M 機付近に掲示していただいています。



マンション入口に貼ったポスター

防犯に関するフォーラムの開催

地域住民の防犯意識啓発のため、活動の出発点となった P T A 中心の「高津・東高津中学校区地域教育会議」と共催で、年 1 , 2 回、防犯をテーマとしたフォーラムを開催しています。

最初に行った 2003 年では、前半に「ガーディアン・エンジェルス」の小田啓二理事長に講演していただき、後半の部では、子供、地域住民代表、警察官がそれぞれの立場から防犯について何ができるか話し合うパネルディスカッションが行われました。子供の中にも、友人が被害に遭遇した経験を持ち、防犯に対する関心が高いことがわかるなど、成果があったとのこと。

2005 年 12 月には、「みんなの力で地域を守る～2005～」と題し、第 1 部で池田小事件被害者のご遺族（父親）に、第 2 部では防犯教育の専門家、小宮信夫氏（立正大学教授）を講師に招いてのフォーラムが高津区の久本小学校体育館で開催されました（参加者は約 500 人。大多数が児童の保護者。女性約 8 割、男性約 2 割）。また、同じ時間帯には子供向けの「子ども会議」が開催されました。「子ども会議」では、低学年クラス、高学年クラスに分

防犯フォーラムの様子



かれた「子ども防犯教室」を行っています。

3. 組織の運営

(1) NPOの組織運営

会員

正会員：2005年10月現在、NPOの正会員は55名で、このうち役員6名で理事会を構成しています。中心的に活動を行っているメンバーは約20名で、犯罪日報の作成、わんわんパトロール隊の普及活動、事務書類作成などの役割分担を行っています。

活動参加メンバー：メールマガジンを受信する登録会員が約3200人、わんわんパトロールに協力する会員が約300頭（約270世帯）（2005年10月現在）と、参加数が多いのが特徴です。メール会員の年齢層は、概ね中学生から70歳代の方までいらっしゃるということです。

協賛会員：この他、協賛会員になっている企業が5社あります。協賛会員は、主に不動産関係やNPOの役員が経営している会社が会員になっているということです。今後、防犯フィルムの企業も協賛予定ということです。

会費：正会員が入会金1000円、年会費2000円。正会員には、会のロゴマークをプリントした（自宅ドアに貼り付け用）「防犯シール」が配布されます。企業等の協賛会員の会費は1口1万円となっています。

事業規模

NPO活動としての事業規模は年間で約190万円。収入は主に協賛会費（約150万円）や寄付金であり、支出は、犯罪日報の情報配信のための送信費用（約60万円）が大きくなっています。人件費がでないため、専従者は抱えられない中で運営が行われています。

(2) 活動の連携・協力関係

本活動の出発点となったPTAを中心とした活動「高津・東高津中学校区地域教育会議」とは防犯意識啓発のフォーラムを共催するなど、立ち上げ当初から連携が図られています。警察からは、高津署が毎日配信する犯罪日報の提供を受けています。隣接区の宮前署からも毎日ではありませんが、情報提供を受けています。

また、2005年度に神奈川県「安全・安心まちづくりパイロット事業」に認定され、補助金の支援を受けるなどの評価を得ています。

4. 活動の特徴・ポイント

身近な情報を毎日継続的に提供している 警察が作成した「犯罪日報」を有効活用

地域住民に防犯意識を高めたり、根付かせたりするための効果的な手段として、地元で起きている身近な情報を毎日継続的に提供していることが大きな特徴として挙げられます。特に、警察署が毎日独自に作成している「犯罪日報」の情報が提供されることにより、有効活用されています。

インターネットを活用して地域で起きている身近な犯罪情報を毎日提供している

警察署から得た犯罪日報の情報を中心に、インターネットを活用して配信しています（携帯電話宛のサービスも行っている）。警察から学校に日報の配信がなされなかったのもFAX配信も警察側の容量が足りないという理由からでしたが、こうした問題を解消する一助にもなっています。

多くの方が無理なく参加しやすいシステムをとっている

「わんわんパトロール隊」は、犬の散歩をそのまま防犯活動に役立てるもので、地域を分担して網羅的に回ることにはされていませんが、より多くの方が無理なく参加できる形態をとっており、活動の継続性が期待されます。また、犯罪日報の情報提供についても課金せず、無料で配信を行うことにより、多数の参加を可能にしています。

犯罪の抑止効果が高いと考えられる対象に着目して協力依頼を行っている

抑止効果が高いと考えられる場所や企業に対して協力依頼を行っています。例えば、空き巣の多い集合住宅には、入口に「空き巣注意」のポスターを掲示することの了解を得ています。また、最近多発している「振り込め詐欺」などについては、金融機関のATM機器周辺に注意を呼びかけるポスター掲示の協力を得ています。今後、タクシー協会にも協力を呼びかけていく方針とのことで、多角的な着眼点を持って活動していることが窺われます。

会員からの情報提供

当初はNPOの運営側からの犯罪情報の配信ばかりでしたが、最近では会員からの情報提供もあり、相乗効果を挙げつつあります。また、提供する情報を「地域でおきた犯罪」に絞っていることから、他人ごとでない「身近な問題」が共有されている状

5 . 活動の課題、今後の展開など

行政・自治会等地元既存組織との連携

況が窺われます。

「防犯ネットワーク」の活動範囲は、2つの区にまたがるほど広域であるのに対し、自治会を基盤にした防犯協会は、各自治会区域内でのパトロールなど防犯活動を行うなど活動スタイルの違いが見られます。このようなことから、地縁的組織である地元の自治会組織との協力関係を培っていくことが今後の課題となっています。

一部メンバーへの負担の集中

「防犯ネットワーク」では、より多くの人々が「無理なく参加できる」ための受け皿として、犯罪情報メールの無料配信と、わんわんパトロール隊の活動が設けられ、その数も合計で約3500という数に上ります。

しかしながら、NPOの運営側にとってみれば、少ない年間予算で活動を行うため、活動はボランティアに行われているのが現状です。現在、ほぼ毎日欠かさず犯罪日報を編集し、メール配信をしている田中代表と、コアメンバー約20名で活動が継続していますが、メールの配信先が増える中で、管理など一部の活動メンバーに負担が集中する状況が懸念されます。今後、継続した活動をしていくためには「一部メンバーへの負担の集中」がないよう、バランスをとるなどの対応を図ることも必要と考えられます。

NPO活動メンバーからのメッセージ

家族や友人を思うのと同じ気持ちで自分の地域を愛する。皆さんの町では、愛の反対語である「無関心」が蔓延していませんか？防犯に取り組んでいる人間が戦わなければならないのは、地域に暮らす人々の「無関心」です。地域を愛しているからこそ、本気で考え、真剣に取り組むことができます。

地域に暮らす人々が、町の安全を自分自身のこととして真剣に考えなければ、「誰もが安心して生き生きと暮らせる町の実現」など出来るはずがありません。人任せ、誰かが何とかしてくれるだろうという時代は終わりました。行政を批判することは簡単ですが、批判だけでは世の中は良い方向に向きません。自らが時代の先駆者としての気概を持ち、地域の問題に真剣に取り組む気持ちを持ち続ける事が大切です。自分に出来ることを考え、まず始めてみる。その上で行政との連携を進め、社会全体として効率があがるような問題解決方法を明示していくことが大切です。

私たちは、「見て見ぬふりはしない、自分に出来ることを行動する」をスローガンに防犯運動をスタートしました。少しずつ、共感し、関心を持ってくれる人と企業が増えており、より有効な運動に繋がっていると確信しています。

実際に活動をスタートされている皆様に敬意を表すると共に、これから防犯に取り組もうと考えている皆様に心よりエールを送ります。「頑張れ！」

(NPO法人防犯ネットワーク代表 田中伸一氏)

特定非営利活動法人 防犯ネットワーク [活動展開図]

